

羽田躍進まつり4年ぶりに開催

秋晴れのもと 300名の来場者で賑わう

振興会だより

令和5年11月21日発行
編集・発行 振興会
羽田地区センター



ウォーキング参加者は橋詰広場の「北上夜曲歌碑」について学習を深めました



川前もみじの会の演舞



芦ヶ沢の「鹿踊り」

11月3日(金)に第37回羽田躍進まつりが4年振りに開催されました。秋晴れの好天のもと多数の方々

の来場いただきました。これまで実行委員会形式で行われていましたが、コロナ禍にあつて各種団体活動が停滞したこと、団体構成



繋縁メンバー13名による「よさこい演舞」

来場者の方々から、「もつと多くの団体のステージ発表を観たかった」「やはり作品展があればよかった」などの感想が寄せられました。

- 今年度のまとめは以下のとおりです。
- 【小谷木橋ウォーキングの部】
 - ・25名参加
 - ・地区センター↓新小谷木橋対岸
 - ↓橋詰広場↓地区センター
 - ・橋詰広場にて、北上夜曲歌碑見学と北上夜曲斉唱
 - 【ステージ発表の部】5団体
 - ・伊藤流行山鹿踊保存会
 - ・羽田カラオケ同好会
 - ・川前もみじの会
 - ・繋縁
 - ・OHSHUカルチャー
 - 【販売の部】4団体
 - ・中山間羽田東集落(カニ汁、芋の子汁、玉コン)
 - ・軽トラック市5(佐藤信恵、梅原宣次、小林幸子、菅原秀一、菊池良雄 敬称略)
 - ・今野餅店
 - ・農林保健部会(たまご)
 - 【振舞の部】
 - ・食改善推進協議会(カレーライス)
 - 【協賛の部】
 - ・ちびっこコーナー(「群」による射的、キャンディーすくい)
 - ・グラウンドゴルフ(31名参加)
 - 優勝 高橋まき子
 - 準優勝 佐藤寛一
 - 3位 梅原宣次 敬称略

まちづくり 交付金を活用

集会・屋外施設を整備

今年度4行政区が、1行政区15万円を上限とする交付金を活用し、集会施設の利用環境の向上、安全安心な地域づくりに取り組みました。

東町は街灯のLED化、芦ヶ沢は集会施設へのエアコンの取付、外浦は集会施設照明のLED化とエアコンの取付、田茂山は街灯のLED化です。

今年度で12行政区への交付金の助成は完了となります。



芦ヶ沢集会所に設置されたエアコン室外機

防災用品を整備

|| 振興会 ||

羽田地区振興会は、防災用品として、炊き出し訓練用「屋外用炊飯鍋」、「避難者数掲示板」、「訓練関係者スタッフ腕章」をそれぞれ購入し、先の羽田地区防災訓練で活用しました。これらは活動の見える化につながっています。



防災訓練で「米36合」を2回炊きました



避難者数掲示板



腕章115枚を購入しました

鹿踊り用具を修繕

|| 伊藤流行山鹿踊保存会 ||

羽田地区振興会は、伊藤流行山鹿踊保存会へ、まちづくり交付金20万円を助成しました。

同保存会は、長きにわたり郷土芸能の伝承活動に取り組んできております。

この度、他地域から保存会への入会を希望する女性や子どもが見られたことから、新規入会者用に用具一式を揃えたいとの申請があり、振興会執行委員会で協議し、8人分の修繕



えじこ(ヘルメット)の交換修繕を実施

繕代を助成することとなりました。担い手不足の中で、継承者の育成につながる事業と言えます。

消防後援会が 助成金を支給

10月27日(金)、羽田地区消防後援会(会長 今野次男)は、第8、9分団へそれぞれ事業補助費として11万円の助成金を支給しました。この補助費は、地域全戸から1戸当たり400円の会費を徴収している中からの支出となります。

また、消防後援会は、消火栓用消火器具の点検と操作訓練を実施した行政区へ8千円、消火栓用消火器具格納庫の新設及びホース3本以内と管鑑1本のセットを購入する行政区

ウォーキング講座開催 || 農林保健部会 ||

へ購入金額の半額を助成しております。

農林保健部会は、10月28日(土)、「ウォーキング講座」を実施しました。この事業は、地区センターをスタートし、火石森経塚、外浦山の神社、市総合体育館を巡り、交流と故郷再発見をねらいに行われたものです。参加者14名が澄み渡る青空のもと、さわやかな汗をかきました。この事業を最後に、今年度の部会事業は終了となりました。

胆江日日新聞

株式会社 胆江日日新聞社
〒023-0042 岩手県奥州市水沢柳町8
電話(0197)24-2244
FAX(0197)24-1281
©胆江日日新聞社 2023

貴金属の加工・修理承ります

宝石のオノ

水沢駅通り
TEL 233-3355
FAX 233-2172

きょうの紙面

穏やかな時間、読者の声「源流」
おでかけスポット、映画館情報
知っ得情報、健康歳時記
行楽ランチに「するびぎ」を
前沢高バドミントン部70周年

2面
3面
5面
6面
7面

胆江日日新聞社ホームページ
<http://www.tankonews.jp>

『北上夜曲』

発祥の地アピール

1960年代から70年代にかけてヒットした『北上夜曲』の歌碑が、水沢羽田町字中袋地内の新小谷木橋・橋詰広場に立つ。同曲は江刺出身の元教師・菊地規の作詞だが、曲名の「北上」が現在の北上市を連想させることから、「この地域が発祥の地である」とアピールしたい」と、地元団体が同橋完成に合わせて歌碑を建立。3日、新型コロナウイルス禍の影響で開催できなかったお披露目会が現地で行われ、歌碑の前に住民らが同曲を斉唱した。

(見玉直人)

水沢 羽田 新小谷木橋たもとに歌碑 地元住民集い斉唱

作詞したのは、菊地規が18歳だった1940(昭和15)年。水沢農学校(現・県立水沢農業高校)の生徒で、江刺田原の実家や江刺愛宕の下宿先から小谷木橋(2代目の旧橋)を渡り、当時は水沢花園町にあった同校に通っていた。日々眺めていた北上川の風景に、菊地自身が思い描く青春のロマン、ノスタルジアを交えて創作したという。同時期に交流があ

あった安藤睦夫(洋野町出身)が作曲した。作詞から14年後、旧黒沢尻町などが合併して北上市が誕生。その後数年後に同曲がヒットし、国民的愛唱歌として親しまれるようになった。

水沢や江刺には「発祥の地」を示す歌碑がある。水沢リバーサイドゴルフ場近くの河川敷には、菊地の教え子だった羽田小学校の卒業生が1980年に歌碑(詩碑)を建立。菊地の下宿先があった江刺愛宕下川原地内の桜木橋近くにも、発祥の地を示す標柱と説明板がある。

だが、曲名と市名が同じ「北上」であることに加え、毎年多くの観光客が訪れる展勝地には同曲の巨大な歌碑もあり、北上市内で誕生した曲のようなイメージが広まっているのが現状。同市内ではかつて、同曲の歌唱コンクールが開かれていたほか、東北新幹線の北上駅到着時には同曲のチャイムも流れた。同駅の新幹線ホーム階段には、今も歌詞の一部が掲示されている。

2021(令和3)年5月31日の新小谷木橋開通に伴い、羽田町側



新小谷木橋の橋詰広場に建立した『北上夜曲』歌碑の前で同曲を歌う地元住民ら

記念行事は見送ったままだった。羽田地区振興会(橋本欣也会長)が主催する地域行事「羽田躍進まつり」が3日、4年ぶりに開催されるのに

合わせ、歌碑のお披露目と橋の見学を兼ねたウォーキングを企画。地元住民22人が同地区センターを出発し、歌碑の前に集まった。同地区センターで活動する「羽田カラオケ同好会」のメンバーも加わり、同曲を斉唱。同検討委の佐藤会長(83)は「橋の途中にあるパルコ二からは岩手山も眺められる。多くの人に親しんでもらえたら。振興会の橋本会長(79)も「北上夜曲の本家本元はここであることをPRしていきたい」と話していた。

2023年(令和5年)10月12日(木曜日)第26930号

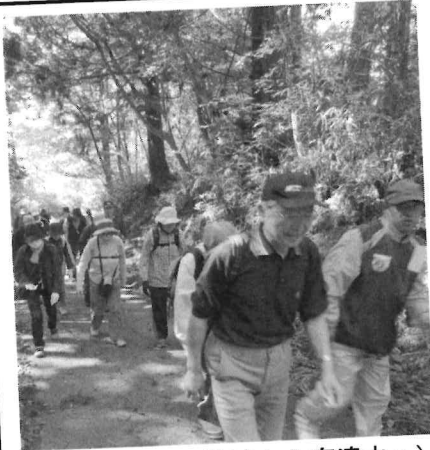
第2 社会面

起伏に富んだ古道行く 水沢

東海道
歩く会

身近な自然と歴史満喫

水沢



南コース出発(鶴城から高清水へ)

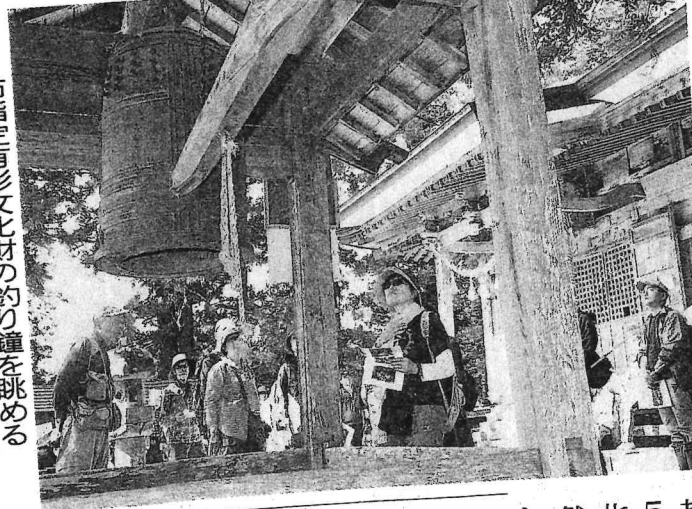
水沢の羽田地区振興会(橋本欣也会長)が主催する「2023アテウェイ・モレ ロマン古道―東海道を歩く会」はこのほど、水沢黒石町から水沢羽田町までの11き区間で開かれた。参加者は起伏に富んだ古道を歩き、途中の神社仏閣にまつわる歴史も学びながら、秋色に染まる里山の自然を満喫した。

2002(平成14)年の「アテウェイ没後1200年記念」を契機にスタートした行事。JR水沢江刺駅東側の羽黒山をゴール地点に、江刺方面から始まる北コース、黒石方面が起点の南コースを交互に実施している。新型コロナウイルスの影響で、20年から3年間は地元関係者だけで実施していたが、今回は4年ぶりに広く市民に参加を呼びかけ、



千養寺到着(区長から説明)

通常開催は18回目となり、同地区内外から約40人参加した。今回は南コースで実施。水沢黒石町の鶴城地区からスタートし、千養寺、山の神社、中清水根観音などを巡った。「黒田助千手観音」とも呼ばれている水沢羽田町字門下の天台宗黒田山千養寺では、同寺総代長の菊池富明さん(69)―水沢羽田町



市指定有形文化財の釣り鐘を眺める
「東海道を歩く会」の参加者たち

字水無沢―が由来などを説明。県指定有形文化財の観音堂をはじめ、1759年に製造された戦時中の金属供出を免れた境内の釣り鐘(市指定有形文化財)、樹齢500年と推定される北限のカヤ(市指定天然記念物)などを紹介した。



山の神社到着(区長から説明)

戦時中の金属供出を免れた境内の釣り鐘(市指定有形文化財)、樹齢500年と推定される北限のカヤ(市指定天然記念物)などを紹介した。



最終目的地到着(出羽神社前で集合写真)

橋本会長(79)は「4年ぶりに本来の形で開催できた。今回はアツプダウンの激しい道のりだが、天候に恵まれて何より」と笑顔で話していた。